

<認知症対応型共同生活介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670104860
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館郡山
訪問調査日	平成 21 年 11 月 25 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 28 日
評価機関名	t億艇非営利活動法人 社会報奨制度活用支援協会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670104860
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館郡山
所在地	鹿児島市郡山2157番1 (電話) 099-298-4078

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年11月25日 評価確定日 平成21年12月28日

## 【情報提供票より】(平成21年11月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 15 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 16 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 17.5 人

### (2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2階建て, 1階 ~ 2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	14,100円(水道光熱費・寝具)	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 20,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要( 11 月 1 日現在)

利用者人数	15 名	男性	1 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	守屋病院 ・ 前島医院 ・ 藤井歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園風景が広がるのどかな住宅地にあり、母体の医療法人とリハビリテーション支援や24時間の医療連携をしている。職員は急変や事故発生に備え普通救命救急講習を受講し、毎月のホーム内研修と毎月の法人研修でケア対応やケア技術の向上を目指しており、利用者や家族は医療面・健康面・安全面での安心感がある。管理者や職員は利用者の今までの家庭や地域での暮らしの継続ができるように、本人の望む暮らし方の把握に努め、地域と密着しながら一人ひとりが喜びのある生活が送れるように支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度の改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はパートを含めた全職員に白紙の自己評価表に記入してもらい、回収したものをケアマネと検討した上、職員会議で評価の意義や項目の理解を図りながら、ケアの振り返りについて話し合い自己評価票を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は家族代表・地域住民代表・包括支援センター職員・民生委員・法人関係者などをメンバーとし、2ヶ月に1回開催している。入居者の状況・行事活動・職員状況・事故・苦情・行事予定・外部評価等の報告を行い意見交換が行われている。地域メンバーから地域行事・事件・事故情報をもらいそれらの対策やアドバイスが話し合われ、行政からは行政分野の情報や助言をもらうなど討議内容を活かした取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族にはホームでの様子や心身の状況報告を行いながら、面会時や家族会、意見箱の設置、運営推進会議等意見を聞く機会を設け、些細な意見であっても大切に受け止めて職員間で話し合い運営に反映させるように図っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は地域代表者の協力で地域行事の情報进行をもらい、小学校運動会・文化祭・馬場市(地元の季節開催の市場)・認知症予防教室等へ参加し、ホームの敬老会・防災訓練・秋祭りには地域の人が参加するなど地域住民と交流している。駐在所から地域の火災、住居侵入、詐欺事件等情報提供や対策の助言をもらい、職員は救命ボランティアに登録するなど地域との連携を図っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の思いを大切に考える事を柱に、地域の人々と喜びある暮らしを支援していく花々館全体の理念である。花々館郡山では具体的な表現を加えることで職員が理解しやすいように工夫をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は毎朝の申し送り時に理念の唱和を行い、ホールに理念を掲示するなど意識付けをしている。職員は理念を共有し、実践に向けて日々の取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域代表者から地域情報をもらい小学校の運動会・文化祭・馬場市・認知症予防教室などに参加している。ホームの敬老会・防災訓練・秋祭り等の行事には地域の人々が参加している。駐在所と安全対策の連携をするなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が参加して自己評価の取り組みをしている。評価の意義の理解や日頃のケアの振り返りについて検討し、今後に向けてサービスの質の再確認をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に開催し、ホームから評価結果・入居状況・行事活動・職員状況・事故・苦情・行事予定など報告し、メンバーから地域行事・事故・事件・行政情報などもらい、対策やアドバイス、意見を討議しサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市にはホーム便りを届け状況報告を行い、苦情相談・利用者の生活相談・空き部屋や待機者の情報交換・市が実施する説明会や研修会への参加・介護相談員の受け入れなどを行い、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には面会時に利用者の暮らしぶり・健康状態・金銭管理・職員異動を報告する他、毎月利用者の日頃の様子・健康・遠方家族には金銭報告など個々に合わせた報告書を作成し送付している。年4～5回発行するホーム便りでホームの活動報告をしている。体調の変化時は電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時・家族会・意見箱の設置・運営推進会議など家族の意見を聞く機会を設けている。些細な意見であっても大切に受け止めて職員間で話し合い運営に反映させるように図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係の継続を重視し法人間の異動やユニット間の異動は最小限に抑えている。急な異動を避けたり、ユニット間の交流を日頃から行うなど利用者のダメージを防ぐ工夫をしている。管理者は職員の働きやすい環境作りに配慮し職員の離職を抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修は年間計画を作成し、毎月内部では四つの委員会が中心になって研修し、毎月の法人研修にも夜勤者以外全員参加している。外部研修は希望や資格などに応じて参加している。職員は普通救命講習は必ず受講するようにするなど計画的に職員を育てる取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員は2～3ヶ月毎のグループホーム協議会の研修に参加し同業者と交流している。地域のグループホームや同法人のグループホームと相互訪問の機会を持ち活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅からの入居が多く、必ず本人・家族に見学してもらい、一緒にお茶飲みをしながら雰囲気馴染んでもらい納得の上でサービスの開始をしている。入居後は利用者に寄り添うことを心がけ、家族の協力をもらうなど不安の軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の方から野菜の作り方、言葉遣い、身だしなみ、礼儀作法を教わったり、励まされたり慰めてもらうなど人生の先輩から教わるが多く感謝しながら共に日々の生活を過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との関わりの中でゆっくり会話し、言葉や表情などから意向を把握し各自のノートに記録している。申し送りや職員会議で各自の情報を基にして利用者の真意を推し測る努力をしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向や希望を聞き、チーム検討会でより良い暮らしのために必要なケアを検討し事業所外の看護師、医師の意見を反映しながら利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを含め、介護計画の期間に応じた見直しを実施している。状態に変化が生じた場合は速やかに本人・家族・管理者・ケアマネ・職員などでサービス担当者会議を開催し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体病院の看護師が週1回訪問し健康管理や医療処置で生活の継続を図り、急変時の対応など医療連携体制を活かしている。本人や家族の要望に応じて通院、買い物、理美容院への送迎など柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関との情報は利用者の個別ノートを作りホームからの情報、医療機関からの情報が記入され連携している。他の専門医受診や往診、家族の希望のかかりつけ医受診についても適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人・家族には重度化した場合や看取りの指針について説明を行い同意をもらっている。看取りの事例はないが、重度化した場合管理者は家族・医師・看護師・介護職員で繰り返し話し合いをしながら方針の共有化を行い支援する体制作りをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	学習委員会を中心にプライバシーに関する勉強会を行い、職員の言葉づかいや対応について意識向上を図っている。申し送り時の利用者名はイニシャルを使用し、個別式の面会簿の工夫、記録物の保管場所などプライバシーに対する配慮が伺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のホームでの生活の流れはあるが、その日の利用者の気持ちや体調を優先し、食事・入浴・散歩・買い物・レクリエーション・テレビ・昼寝など一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士に利用者の希望のメニューを伝えながら献立の作成と材料の仕入れを依頼している。ホームで収穫した野菜を足しながら職員と食事作りを行い、食前の嚥下体操やメニューの説明で食欲促進を図りみんなで食事を楽しめるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する人もあるが週3回の入浴者が多い。時間も午前午後と希望にそって柔軟な対応をしている。車椅子から入浴できるように1階には機械浴が設置してある。お湯は一人ひとり入れ替えをして気持ち良く入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は本人の生活歴や趣味、能力を生活の中で発揮してもらえるようにモップがけや洗濯たたみ、花の水やりなど張り合いにつながる役割の支援や、季節の行事、買い物、ドライブ、裁縫、編み物など楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、利用者の体調や希望に応じて周辺の散歩や車で買い物に出かけている。庭やベランダから田園風景を眺めながらお茶を飲んだり気分転換や五感の活性化を図っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、非常口、門などに鍵をかけないで自由に入出できる取り組みをし、職員は見守りをしている。利用者一人での外出に備えて地域の駐在所や近隣住民へ日頃から協力をお願いをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員会を中心に毎月、初期消火などの自主訓練や家具の危険見直し、土砂災害時の避難、備蓄品の見直しなど勉強会をする他、消防署立会いで年2回通報・消火・避難訓練をしている。職員は救命ボランティアに登録し地域との協力体制を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が献立の作成と材料を準備しカロリーやバランスに配慮した食事支援をしている。職員は食事・水分摂取量の記録を行い、摂取量に変化がある人については情報を共有し、食事形態、代替品、おやつなど工夫をしながら摂取できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には菊の花や折り紙で作ったクリスマスリースを飾り、リビングには冬景色の手づくり作品を飾り季節感を採り入れている。台所は利用者が直ぐ手伝いができるこじんまりとした作りになっている。日当たりのよいリビングはカーテンやよしずで光の調節をし、冬場は加湿器を使って居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	パンフレットに必要な持ち込み品を記載しており、思い出の品や愛用品の持ち込みが記載され、更にそれらの品物の必要性や効果についても説明されている。居室には使い慣れた家具やテレビ・仏壇などが持ち込まれ、備え付けのベッドを使用しない人や備え付けのダンスを2つに分けて低く使用する人など本人が過ごし易い工夫がしてある。		